



TOYOINKSC

For a Vibrant World

株主のみなさまへ

第183期報告書

2020年1月1日-12月31日

株主のみなさまへ／長期構想 SIC27	1
業績ハイライト	3
事業別活動報告	5
グループトピックス	9
CSR	10
連結財務諸表の要旨	11
会社情報	12
株式情報	13

株主のみなさまへ

生活文化創造企業 東洋インキグループ

“For a Vibrant World”

100年レンジでの持続的成長が
可能な企業体質に変革し、
すべての生活者・生命・地球環境が
いきいきと共生する世界の実現に
貢献する企業グループを目指します



株主のみなさまにおかれましては、平素から格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。また現在もお新型コロナウイルスが猛威を振るっている状況ではございますが、一日も早く皆さまが平穏な生活を取り戻せますようお祈り申し上げます。

2020年度はSIC-I仕上げの年として、今までの挑戦や試行錯誤を踏まえて、選択と集中の指向で事業の構造改革や企業体質の強化に取り組んでまいりました。

第183期（2020年度）の年度方針である「積極的に拡大させる事業への社内外との連携強化、重点投資による着実な成果の創出」、「生販技一体となったコストダウン、利益創出による事業やエリアの構造改革の確実な実行」、「業務改革への間断なき挑戦の繰り返しによる大胆な変化」を着実に推進してまいりましたが、世界的な消費活動の停滞に伴う販売の伸び悩みに加え、原材料の調達や生産活動への支障が発生するなど、非常に厳しい状況が続きました。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は減収に



なりましたうえ、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、それぞれ減益になりました。

以上のような状況ではありますが、東洋インキグループでは2021年度から変革や挑戦を踏まえて「新しい成果を積み重ねる3年間」と位置づけ「SIC-II」をスタートさせました。加速度的に変化する時代を見据え、新常态に役立つ提案を構想し、その全体像をデザインし、自社製品やサービスを使っただけのモデルを構築、実践してまいります。そしてグループ

全体の提供価値「For a Vibrant World (すべての生活者・生命・地球環境がいきいきと共存・共生する世界)」の実現を目指して、社会の持続的な成長に貢献できる価値を創り続けてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2021年3月
代表取締役社長 高島 悟

業績ハイライト

※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

売上高推移

単位：億円



所在地別売上高

単位：億円



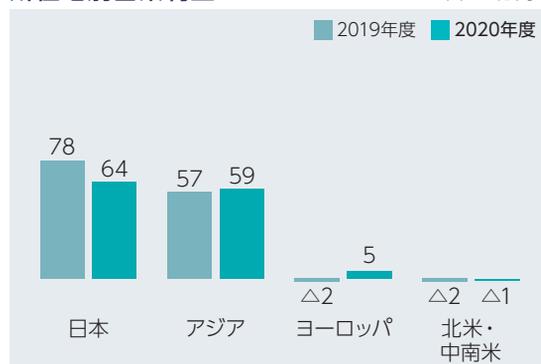
営業利益推移

単位：億円



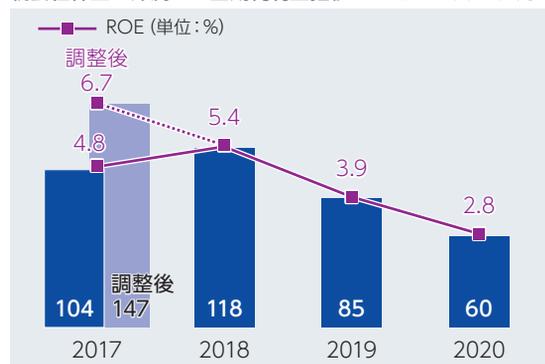
所在地別営業利益

単位：億円



親会社株主に帰属する当期純利益推移・ROE

単位：億円



注1. 当社は2017年度より、それまで毎年4月1日から翌年3月31日としていた決算期を、毎年1月1日から12月31日までに変更しています。そのため、2017年度は決算期変更の影響により、対象期間が国内は4～12月の9か月間、海外は1～12月の12か月間となっています。

※2017年度の「調整後」は、国内・海外ともに1～12月に調整した実績値です。

注2. 本報告書の2017年度及び2018年度数値におきましては、当社の連結子会社において決算訂正を行ったため、過年度決算訂正を反映させております。

▶▶▶ 積極的に拡大させる事業への社内外との連携強化、重点投資による着実な成果の創出

環境問題に関する危機意識の世界的な高まりや、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う社会の変化に対しても、新たな価値を提供することに取り組んできました。テレワーク需要が拡大するなか、液晶パネル需要がシフトしている中国市場で液晶ディスプレイカラーフィルター用材料の販売を拡大させるとともに、高速通信対応のモバイル端末向け塗工材料の開発や拡販も進めました。また、循環型社会の実現に向けてバイオマスインキや環境調和型粘着剤の展開に注力しましたことに加え、電気自動車の普及が促進されてきたことに伴い、車載用リチウムイオン電池材料の北米や欧州での供給体制構築に着手し、日本、中国と合わせた自動車4大市場へのビジネス展開の礎を整えました。さらに、安心・安全・衛生への関心が高まるなか、印刷物に抗菌性を付与する印刷インキを開発しましたほか、メディカル・ヘルスケア事業で生産能力増強と最新規制への対応を図るため、貼付型医薬品新工場の建設に着手しました。

▶▶▶ 生販技一体となったコストダウン、利益創出による事業やエリアの構造改革の確実な実行

デジタル化に伴い市場が縮小している国内の印刷・情報関連事業で構造改革を進め、同業他社とのアライアンスにより生産を最適化するとともに、人員の配置転換により組織のダウンサイジングを実行しました。一方、中国や東南アジア、インド、トルコなどの新興国では、生活必需品の需要拡大を今後も見込んでおり、パッケージ関連のインキや接着剤の生産設備増強を進めました。また、着色剤事業では、グローバルでの事業体制を見直し、収益が低迷していたヨーロッパや東南アジアの一部拠点について撤退を進めました。

▶▶▶ 業務改革への間断なき挑戦の繰り返しによる大胆な変化

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、在宅勤務での新しい働き方のトライアルを人事制度面、システム面、ファシリティ面で行ったことに加え、海外グループ会社での設備立ち上げや技術支援をリモートで行うことで業務の効率化とコスト削減を実現しました。また、プライベートショーや日常の販促活動においても、リアルとデジタルを融合させた新しいマーケティング活動を推進しました。さらには、前連結会計年度に判明したフィリピンの子会社における不適切な会計処理に対する改善として、グループ全体で内部統制の再構築を進めました。

色材・機能材関連事業

色材のリーディングカンパニーである当社グループにとって、有機顔料の合成技術は原点の一つ。ナノレベルの分散技術は、液晶ディスプレイ用材料やレジストインキ、カーボンナノチューブなどにも展開されています。

中核事業会社：トヨーカラー株式会社

◇主な製品 有機顔料、加工顔料、プラスチック用着色剤、カラーフィルター用材料など



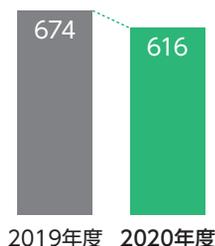
■ 当期の概況

高機能顔料や液晶ディスプレイカラーフィルター用材料は、米中貿易摩擦や新型コロナウイルスの感染拡大などにより、前半は大型テレビやスマートフォン向けが低調でしたものの、後半に回復してきましたうえ、パソコンやタブレット向けが伸びました。一方、中国への市場シフトによりコストダウン要請が厳しくなり、利益は圧迫されました。

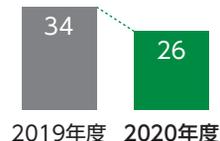
汎用顔料は、印刷インキ用の低調が通年続きましたうえ、前半の自動車販売の落ち込みに伴い塗料用も低調に推移しました。

プラスチック用着色剤は、国内では衛生関連の容器用が伸びましたが、外出自粛やインバウンド市場の落ち込みに伴い、飲料キャップ用や化粧品容器用などが伸び悩みましたうえ、建材や太陽電池向けなどの販売も減少しました。また東南アジアでの事務機器向けや、北米や欧州の自動車向けも低調に推移しました。

売上高推移
(単位：億円)

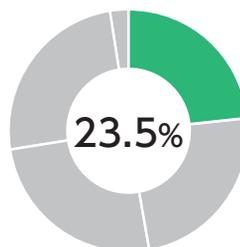


営業利益推移
(単位：億円)

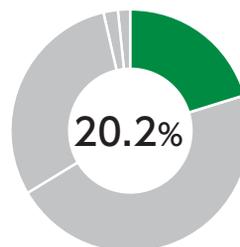


2020年度

売上高構成比



営業利益構成比



記載金額は億円未満を四捨五入しています。
各事業の売上高・営業利益の金額は、事業間の取引を控除していません。

ポリマー・塗加工関連事業

樹脂（ポリマー）を素に、合成や塗加工の技術を生かし、自動車やエレクトロニクスの分野、太陽電池などのエネルギー分野、メディカル・ヘルスケア分野などで多くの機能性製品が採用されています。

中核事業会社：トーヨーケム株式会社

◇主な製品 缶用塗料、樹脂、接着剤、粘着剤、塗工材料、天然材料、メディカル製品など



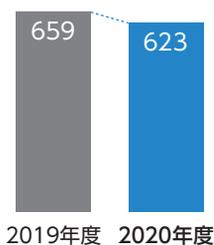
■ 当期の概況

塗工材料は、スマートフォン向けが前半はサプライチェーンの寸断や需要減少で低迷しましたものの、後半は回復してきましたうえ、高速通信対応の電磁波シールドフィルムの開発や拡販が進みました。

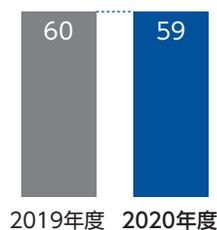
接着剤は、国内では包装用が堅調に推移しましたものの、リチウムイオン電池用は伸び悩みました。また海外では、新型コロナウイルスに伴う事業活動の一時停止により、中国や東南アジアが低調となりました。粘着剤は、国内で自動車向けが伸び悩みましたが、ラベル用は堅調に推移し、ディスプレイ保護用などの拡販が国内外で進みました。

缶用塗料（フィニッシュ）は、国内では外出自粛に伴いアルコール飲料缶用が伸長しましたが、自動販売機やコンビニエンスストア向けのコーヒーや清涼飲料缶用は伸び悩みましたうえ、中国や北米でも低調に推移しました。

売上高推移
(単位：億円)

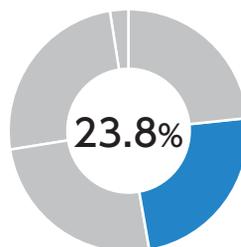


営業利益推移
(単位：億円)

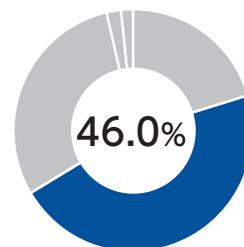


2020年度

売上高構成比



営業利益構成比



記載金額は億円未満を四捨五入しています。
各事業の売上高・営業利益の金額は、事業間の取引を控除していません。

パッケージ関連事業

パッケージの製造工程に多様な高機能製品を提供。安心・安全が求められる食品包装の分野では、インキや接着剤の水溶性化、無溶剤化などを進め、また、サステナブルな社会を目指し、バイオマス製品の開発も行っています。

中核事業会社：東洋インキ株式会社

◇主な製品 グラビアインキ、フレキシオンキ、
グラビアシリンダー製版など



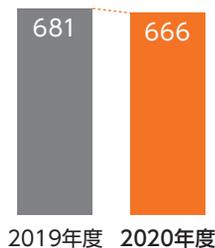
■ 当期の概況

国内のグラビアインキは、主力の包装用でインバウンド需要は落ち込みましたものの、外出自粛に伴い冷食やレトルト等の家庭用食品向けや、衛生商品向けの販売が堅調に推移し、中でもバイオマスインキが伸長しました。一方、出版用の需要減少が続きましたうえ、建装材用も低調に推移し、溶剤や機器販売も減少しました。

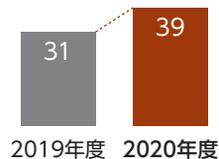
海外では、中国や東南アジア、インドなどで、顧客や自社拠点の操業停止に伴う影響を受けましたものの、生活必需品として比較的早く稼働を回復できましたうえ、環境対応製品の拡販も進みました。

グラビアのシリンダー製版事業は、包装用が後半に伸び悩みましたが、エレクトロニクス関連の精密製版の拡販は進みました。

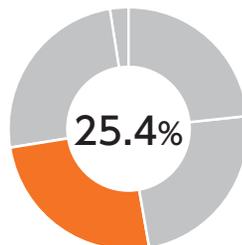
売上高推移
(単位：億円)



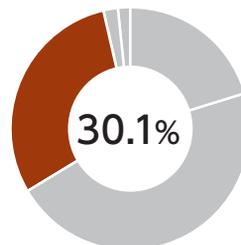
営業利益推移
(単位：億円)



2020年度
売上高構成比



2020年度
営業利益構成比



記載金額は億円未満を四捨五入しています。
各事業の売上高・営業利益の金額は、事業間の取引を控除していません。

印刷・情報関連事業

当社グループの原点であり、重要な基盤事業の一つ。顔料や樹脂から最終製品までを一貫生産できる強みを生かし、環境調和型や高機能など多様な製品を開発。印刷工程での標準化サポートなどのソリューションも提供しています。

中核事業会社：東洋インキ株式会社

◇主な製品 オフセットインキ、金属インキ、印刷機械、印刷機器、プリプレスシステム、印刷材料、インクジェット材料など

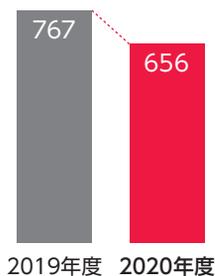


■ 当期の概況

デジタル化に伴う情報系印刷市場の縮小が続くなか、国内ではビジネス規模の最適化や同業他社との協業、コストダウンを強力に進め、利益の確保を図る一方、海外ではグローバルな拠点拡充を図りました。また、高感度UVインキや、オンデマンド印刷向けインクジェット用インキなどの開発や拡販にも取り組みました。また、環境規制に伴う原材料価格上昇の一部を転嫁させていただくため、販売価格の改定も進めております。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大や長期化に伴い、国内では外出自粛やイベント中止などでチラシや広告などの印刷物が減少し、インキの需要減少が進みました。また中国やインドなど一部地域では事業活動の一時停止も余儀なくされました。

売上高推移
(単位：億円)

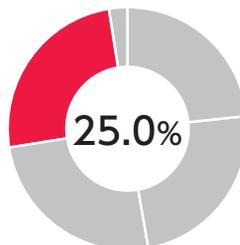


営業利益推移
(単位：億円)

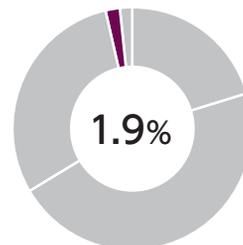


2020年度

売上高構成比



営業利益構成比



記載金額は億円未満を四捨五入しています。
各事業の売上高・営業利益の金額は、事業間の取引を控除していません。

包装材料向け新規紫外線吸収剤の開発



東洋インキグループが開発した新規紫外線吸収剤は、長年培った合成技術により独自の構造を有し、十分な紫外線吸収性能に加え、紫外線吸収剤の溶出性の低減と透明性が両立可能な新しい素材です。また、内容物に応じて紫外線の吸収域を一定範囲で任意に制御することも可能です。

医薬品包装に最適な「紫外線吸収剤」(イメージ)

高い品質が求められる食品・医薬品包装に最適

食品・医薬品の容器・包装材料には、内容物保護およびライフタイム延長のための紫外線カット機能と、内容物を確認するための高い透明性が求められます。

しかし、従来の紫外線吸収剤をポリオレフィン系樹脂(ポリエチレン、ポリプロピレン)製の容器・包装材料に使用した場合、紫外線吸収剤が微量ながらも樹脂から溶け出し内容物に混入する懸念があるため、食品・医薬品では使用できない用途も数多くありました。一部には溶出性を低減した紫外線吸収剤もありますが、透明性が低く内容物が確認しづらくなり、溶出性と透明性は両立が難しい関係にありました。

内容物への溶出を防ぐため、多層フィルムの中層や外装に遮光層を設けることが一般的ですが、東洋インキグループが開

発した新規紫外線吸収剤を用いることでフィルムの構成を簡素化できるほか、紫外線に弱く配合することが難しかった成分を内容物中に加えることができるようになるなど配合設計の自由度が向上します。商品をより魅力的に伝えることができる食品パッケージや、容量の確認が容易な医療者・患者双方にとって安心安全な包装材料の実現に寄与します。2021年の量産化に向けてマーケティング活動を進めています。

Lioplax®



紫外線吸収剤を含有したプラスチック用着色剤

「安心・安全・衛生」への高まる関心に答える

新型コロナウイルス感染症の
拡大に伴い、
衛生性を重視したいという
要望が多く寄せられています



東洋インキグループ
オリジナルキャラクター
リオちゃん

UV硬化型抗菌ニスが「SIAA」マークを取得

東洋インキ株式会社は、2020年9月10日に一般社団法人抗菌製品技術協議会（SIAA）に加入しました。「SIAAマーク」はSIAAが制定する、抗菌性・安全性・適切な表示を満たす製品のみに表示できる品質と安全性に関する情報開示マークです。現在、UV硬化型抗菌ニス、溶剤型フレキシオン抗菌ニスでSIAAマークを取得しており、抗菌加工製品の抗菌性試験方法であるJIS Z 2801に基づき、大腸菌、黄色ブドウ球菌に対し有効であることを確認済みです。またバイオマス成分を有する抗菌ニス等、ラインナップを拡充しています。



抗ウイルス性ハードコート剤を開発

トーヨーケム株式会社は、これまでの抗菌性ハードコート剤に加え、新たに抗ウイルス性ハードコート剤を開発し、主にディスプレイやタッチパネル周辺市場向けに提供しています。近年、医療現場や教育現場におけるデジタル化が進みタッチパネル等の導入により利便性が向上する一方で、不特定多数の人が端末を「指で触る」機会が増えることで、菌やウイルスへの感染対策が求められています。

本製品は抗ウイルス性能評価の国際基準であるISO 21702をクリアし、エンベロップを持つA型インフルエンザウイルスおよびノンエンベロップウイルスであるネコカリシウイルス（ノロウイルスの代替）に対し共に有効であることが確認されています。

JIS Z 2801 基準
(大腸菌・黄色ブドウ球菌)
抗菌性ハードコート剤
リオデュラス® AMB シリーズ



ISO21702 基準
(インフルエンザウイルス・ネコカリシウイルス)
抗ウイルス性ハードコート剤
リオデュラス® AV シリーズ

連結財務諸表の要旨

※記載金額は億円未満を四捨五入しています。

連結貸借対照表の要旨

(単位：億円)

科目	2019年12月31日現在	2020年12月31日現在
流動資産	2,000	2,141
固定資産	1,762	1,661
資産合計	3,761	3,802
流動負債	1,067	914
固定負債	425	715
負債合計	1,492	1,629
資本金	317	317
資本剰余金	325	325
利益剰余金	1,466	1,474
自己株式	△50	△49
その他の包括利益累計額	135	30
新株予約権	3	2
非支配株主持分	72	74
純資産合計	2,269	2,173
負債純資産合計	3,761	3,802

連結損益計算書の要旨

(単位：億円)

	2019年度	2020年度
売上高	2,799	2,577
売上原価	2,196	2,005
販売費・一般管理費	472	443
営業利益	132	129
営業外収益	20	20
営業外費用	13	24
経常利益	138	125
特別利益	21	1
特別損失	36	26
税金等調整前当期純利益	123	100
法人税・住民税及び事業税	33	31
法人税等調整額	1	4
非支配株主に帰属する当期純利益	4	5
親会社株主に帰属する当期純利益	85	60

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：億円)

科目	2019年度	2020年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	197	167
投資活動によるキャッシュ・フロー	△104	△133
財務活動によるキャッシュ・フロー	△62	162
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△3
現金及び現金同等物の増減額	28	194
現金及び現金同等物の期首残高	510	538
現金及び現金同等物の期末残高	538	731

◎有利子負債の状況



◎1株当たり配当金



● 期末配当金：1株につき45円（中間配当金45円と合わせ年90円）

● 期末配当の効力発生日（支払開始日）：2021年3月25日

※ 1株当たり配当金は、2018年7月1日をもって実施しました株式会社併合の併合割合を勘案して、記載しております。

会社情報

会社概要 (2020年12月31日現在)

創業	1896 (明治29) 年1月
設立	1907 (明治40) 年1月15日
資本金	31,733,496,860円
発行済株式総数	60,621,744株
社員数	(連結) 8,157名 (単独) 420名

役員 (取締役・監査役) (2021年3月24日現在)

代表取締役会長	北川 克己
代表取締役社長	高島 悟
専務取締役	青山 裕也
常務取締役	濱田 弘之
常務取締役	中野 和人
取締役	甘利 公人
取締役	木村 恵子
取締役	金子 眞吾
取締役	小野寺千世
取締役	横井 裕
常勤監査役	野邊 俊彦
常勤監査役	垣谷 英孝
常勤監査役	平川 利昭
監査役	池上 重輔
監査役	松本 実

グループ主要営業品目 (2020年12月31日現在)

有機顔料、加工顔料、プラスチック用着色剤、
カラーフィルター用材料、缶用塗料、樹脂、
接着剤、粘着剤、塗工材料、天然材料、
メディカル製品、グラビアインキ、フレキシソインキ、
グラビアシリンダー製版、オフセットインキ、
金属インキ、印刷機械、印刷機器、
プリプレスシステム、印刷材料、インクジェット材料

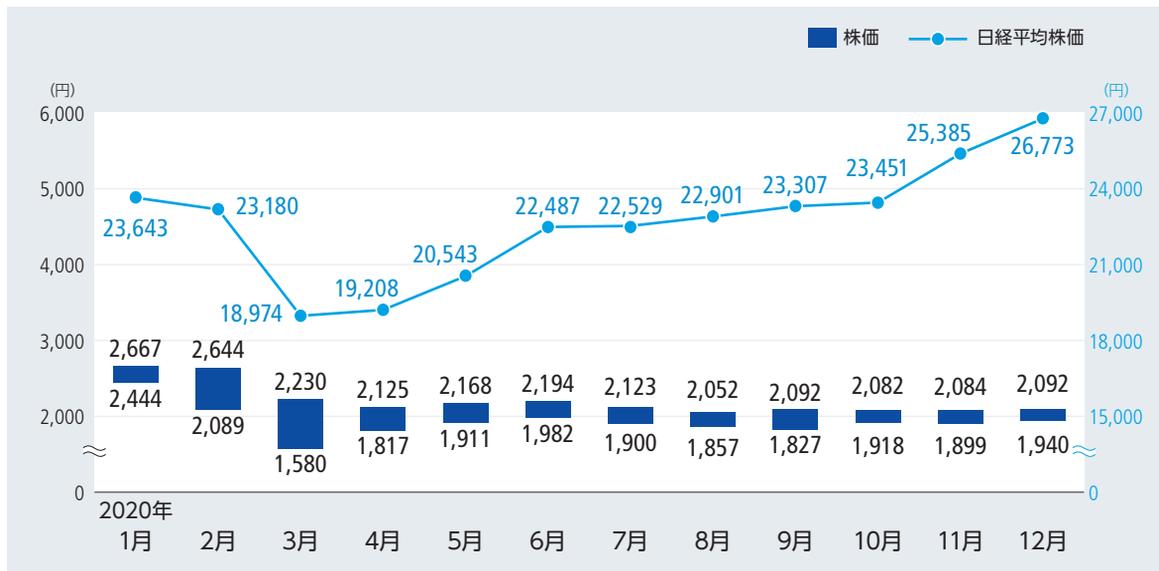
事業拠点 (2020年12月31日現在)

※太字 製造拠点含む

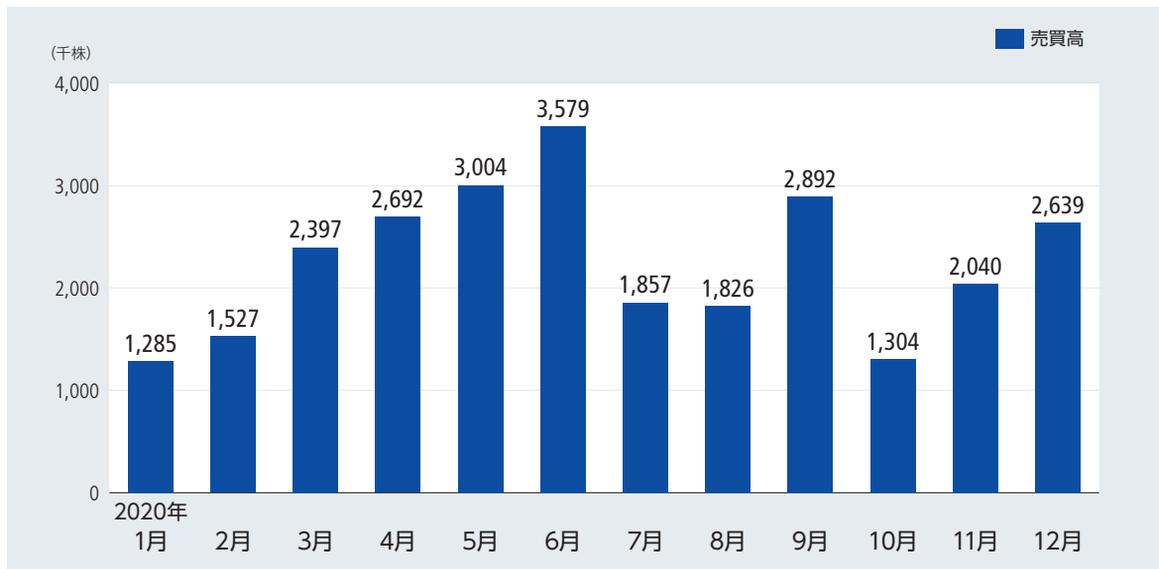
国内拠点所在地	札幌 千歳 仙台 東京(京橋、十条) 千葉 茂原 川口 埼玉 川越 東松山 富山 金沢 長野 新潟 名古屋 静岡 富士 春日井 守山 大阪 寝屋川 京都 西神 尼崎 岡山 広島 高松 福岡 北九州 熊本
海外拠点所在地	アメリカ合衆国 ブラジル メキシコ フランス ベルギー イギリス ドイツ リトアニア トルコ 中華人民共和国 台湾 大韓民国 シンガポール タイ マレーシア ミャンマー フィリピン インドネシア ベトナム インド アラブ首長国連邦 モロッコ

株式情報

◎株価の推移 (東京証券取引所)



◎売買高の推移 (東京証券取引所)



◆大株主

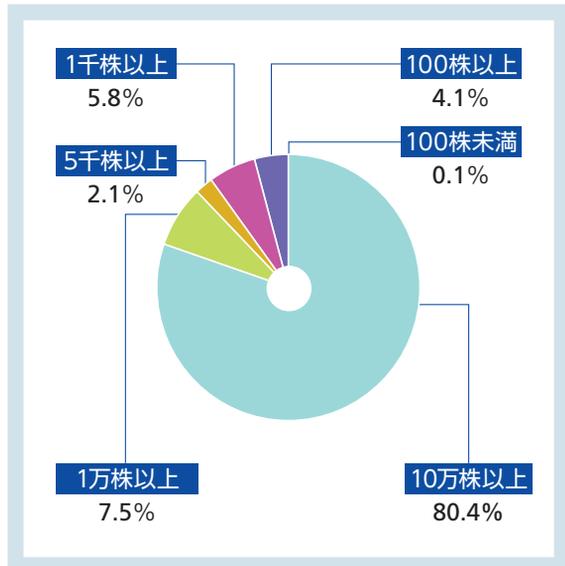
2020年12月31日現在

順位	会社名	持株数(千株)	議決権比率
1	凸版印刷株式会社	13,646	23.41%
2	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,172	5.44%
3	サカティンクス株式会社	2,335	4.01%
4	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,099	3.60%
5	株式会社日本触媒	1,661	2.85%
6	東洋インキグループ社員持株会	1,488	2.55%
7	全国共済農業協同組合連合会	1,296	2.22%
8	東洋インキ取引先持株会	994	1.71%
9	STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST. BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS-UNITED KINGDOM	875	1.50%
10	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	797	1.37%

※自己株式2,195,524株を除く。

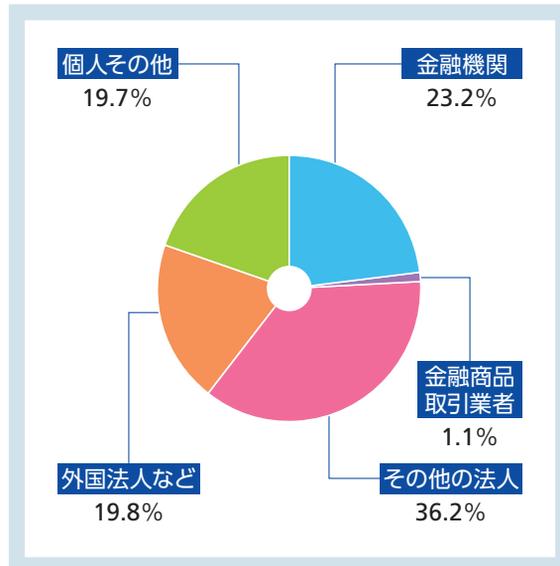
◆所有数別株式数比率

2020年12月31日現在



◆所有者別株式数比率

2020年12月31日現在



株式のご案内

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月下旬

基準日 ●定時株主総会・期末配当：毎年12月31日
●中間配当：毎年6月30日

株主名簿管理人

および
特別口座の
口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

◎住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出について

株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

◎未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

株主優待制度

毎年6月30日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式を2単元(200株)以上かつ1年以上継続保有する株主さまを対象に、年1回、当社オリジナルカタログからお好みの商品(1,000円相当)を1点お選びいただき、贈呈いたします。毎年9月下旬頃に当社オリジナルカタログを発送し、お選びいただいた株主さまから順次、発送させていただきます。

東洋インキ SC ホールディングス 株式会社

〒104-8377 東京都中央区京橋二丁目2番1号

この冊子に関するお問い合わせ先 グループ総務部 TEL.03(3272)5731
インターネットによるお問い合わせ先 <https://schd.toyoinkgroup.com>
E-mail info@toyoinkgroup.com



この報告書は、当社グループのTOYO KING® NEX NVシリーズを使用して印刷しています。

このインキは、バイオマス度40%以上で、石油系の揮発性有機化合物(VOC)を含まない環境にやさしいインキです。